

茂木弘道 著

『反日レイシズムの狂気
ジャパンズ・ホロコース
トの正体を暴く』の紹介

大東 信祐 陸自57

最近米国において『ジャパンズ・ホロコースト』と云う図書が出版された。この図書では日本は先の戦争（大東亜戦争）で「劣等民族」を絶滅せようと三千万人の恐ろしい大量虐殺を行ったと荒唐無稽な主張をしているトンデモ本である。

著者はブライアン・マーク・リッグ氏 Brian Mark Riggs で、エール大学で学位、更にケンブリッジ大学で博士号を取得し、米国軍事大学、陸軍士官学校、サザンメソジスト大学等で歴史の教官を歴任と云う輝かしい職歴を持ち、ウィキペディアでは作家、海軍歴史研究者、講演者として紹介されている。

リッグ氏によると、「日本は1927年から1945年まで18年（満洲事変から大東亜戦争の終末）にわたって、「劣等民族」の絶滅のため、少なくとも3000万人の大量虐殺を行った」とし、その内訳は、

中国	2000万人
インドネシア	400万人
ベトナム	200万人
印度（ベンガル飢饉）	150万人
フィリピン	100万人
朝鮮	50万人
タイ（泰緬鉄道）	34・5万人
マレー・シンガポール	20万人
インド	18万人
沖縄	15万人
サイパン	1万6751人
テニアン	4000人
グアム	2000人
合計	2989万7751人

とされておりそれぞれの数値についても信頼することができない。

また、いわゆる「従軍慰安婦」は日本の性奴隷文化であるとし、米国の原子爆弾投下が日本本土上陸作戦による膨大な戦死者の発生を防いだ等の記述に対し、茂木氏（陸修偕行社会員）は本書において根拠を示して反論を加えている。

『ジャパンズ・ホロコースト』は中国の云う三戦の「世論戦」「心理戦」に当たり、立派な肩書を持つ人物の名でデマを流布し、日本を貶めて有利な情勢を招来しようという作戦の一環であると疑われる。

いわゆる「従軍慰安婦」問題においても、韓国側で強調されている「強制連行」、「その数は20万人」、「終戦時に証拠隠滅のため殺害」、「性奴隷」等の言葉はいずれも韓国側が声高に反復主張し、左傾化したマスコミ等がこれらの言葉を反復使用することにより一般に何となく誤った観念をすり込まれたものであると言える。

これは米国での出版であるが、日本においても、「日本航空123便の墜落事故の原因は、海上自衛隊のミサイル訓練であり、地上から救難に赴いた陸上自衛隊はその証拠隠滅のため火炎放射器で墜落現場を焼き払った」とする図書が元日航職員により出版され、これが全国学校図書館協議会選定図書となり、また事故現場の登山道に「自衛隊が意図的に殺害した乗客・犠牲者」と書かれた慰霊碑が建立されているという。

これについては、産経新聞で報じられたほか、参議院の委員会でも佐藤正久委員から当局に対し質問があり、国、地方ともに遺憾であるとの表現はあったが具体的な施策を執る意思も能力も見当たらないようである。

おける中国系団体による反日的資料館についても、当局の態度はその場において「遺憾である」との意向を表明するにとどまるようである。これ等の事例は「情報戦」として捉え、要すれば反撃を加えることが必要であると考える。

『ジャパンズ・ホロコースト』は米国で出版されたものであるが、茂木氏は本書を英訳し出版の予定であると聞く、海外にも反論が届くことを期待したい。

反日レイシズムの狂気

ジャパンズ・ホロコーストの正体を暴く

茂木弘道

Japan's Holocaustの大嘘

を放っておいてはならない

日本列島の暗黒地帯に潜る日本の敵と闘う

人類の敵

ハート出版 価格1650円（税込）

〒170 0014

東京都豊島区池袋3-9-23

Tel/Fax 03-3590-6078